



仙北市議会定例会

平成17年第3回仙北市議会定例会が12月8日から27日までの20日間にわたり開会されました。提出された案件は、条例案2件、予算案15件、その他8件の計25件で、全ての議案が原案どおり可決されました。

仙北市発足後初となる今回の定例会では、9月20日の町村合併以降、暫定予算となっていた市の予算について、旧3町村で議決された平成17年度予算のうち未執行額を基本とした平成17年度仙北市一般会計予算として、歳入歳出の総額をそれぞれ132億6240万5千円としました。

定例会初日に行われた石黒市長の市政報告、黒坂教育委員長の教育行政報告を一部抜粋して紹介します。

市政報告（一部抜粋）

はじめに

私にとって初めての定例会でありますので、市政運営について私の基本的な考え方を申し述べます。

仙北市をお預かりするにあたって、旧3町村の融和と一体化に努めるとともに、新市建設計画に掲げた仙北市の将来像である「観光産業を活かした北東北の拠点都市」の実現に向け、旧3町村の先人達が築いてきた歴史や文化、各地域の持つ豊富な資源や特性を活かし、仙北市全域がそれぞれの特色を発揮しながら発展し、魅力ある地域となるよう全力で市政運営に取り組んで参ります。

そのまちづくり推進の基本として、1つ目は「農林業をはじめとした地場産業の振興と自立支援」。2つ目は「安全で安心な市民生活、福祉の向上と少子高齢化への対応」。3つ目は「人材育成と教育の充実」。4つ目は「地域の資源・文化の維持保存と育成」。5つ目は「効率的、公正、透明な行政運営と行財政の改革」であります。この5つを重点施策とし、市民の皆さんとの対話を重ねながらその実現に向け努力して参ります。

市民の皆さんが「合併してよかった」、「住んでよかつ

た」と思える仙北市、そして県内外から訪れる方々に「もう一度訪れたい」と思ってもらえるような、子孫に誇れるまちづくりの実現のために、職員と一丸となって取り組んで参りますので、皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

電算統合事業について

合併に係る電算統合事業については、合併前より鋭意進めて参りましたが、このほど基幹系、財務などのシステム構築並びに情報通信ネットワークシステム構築とも終了し、各庁舎において順調に稼動しております。

現在は、次の段階として各課の関連業務システムの充実を図るための作業に入っており、主なものは、国民健康保険・老人保健の高額医療システムや農家台帳システム統合業務などです。

今後は、合併により整備された機器及びシステムの保守委託料や旧3町村間を結ぶ光回線サービスの利用料などが新たに発生するほか、旧町村から引き継がれた機器・ネットワークの維持管理の経費も含め、本予算に計上させていただきます。

秋田わか杉国体仙北市実行委員会設立について

国体事務局を設置し、平成19年秋田わか杉国体に向け、スキー、馬術、カヌー、軟式野球及びデュアスロンの開催に向け準備を進めております。

平成17年11月30日には、秋田わか杉国体仙北市実行委員会を設立し、市、議会、教育委員会、競技団体、競技施設、観光商工関係団体等55名で第1回目の総会を開催いたしました。今後はさらに幹事会、専門部会で競技会の円滑な運営を期するために、必要な準備を進めることにしております。

児童福祉・高齢者福祉について

西明寺保育園建設事業について、工期を平成18年3月10日として進めており、進捗状況は11月末で38%、計画値の35%を上回っております。

また、管理運営については、旧西木村で計画しておりました社会福祉協議会に委託する方式を引き継ぎ、市社会福祉協議会と協議しております。

仙北市は、99歳の敬老祝い金制度でスタートいたしました。合併後99歳になられた方は、角館町の戸沢憲雄さん・菅原吉郎さん、西木町の鈴木新一さん・藤原ツタさんの計4名の方がおまして、誕生日にお祝いし、ますますのご健康を祈念したところです。

汚泥再生処理センターの建設について

し尿処理施設である汚泥再生処理センターの建設について、旧組合敷地内に建設を予定しており、9月5日付で地元の同意を得ております。

これを受け、平成17年度分の事業として旧組合名で環境アセス及び地域計画等の策定業務を、日本技術開発(株)に1,260万円で発注済であります。

18年度は、施設整備基本計画の策定及び発注仕様書等の作成業務の委託を予定しております。

19年度・20年度と2年継続での本体建設工事となり、1日60キロリットルの処理規模で、事業費は24億円を想定しております。

抱返り公園の整備について

散策コースとして人気のある抱返り溪谷は年間17万~20万人の観光客が訪れております。このところ落石や崩落、倒木等により危険性が高くなっていることから、通行止め箇所の解除ができない状況にあります。

平成17年度単車事業で「危険箇所整備調査」を行っておりますが、この度、秋田県自然保護課から抱返り溪谷歩道危険箇所防除事業(仮称)の概算事業費の提示がありました。現在、県に対し当事業の早期着工を強く要望しているところです。

地方道路整備臨時交付金事業について

栃木六本杉線道路改良工事は進捗率40%、平和橋架替工事は上部工の桁製作中であり、道路改良工事、道路維持工事も順調に進めております。

土木施設災害復旧事業については、現年災14箇所、過年災1箇所採択され、補助内示があり次第発注する予定です。

都市計画街路事業について

都市計画街路岩瀬北野線の補償関係については順調に推移しており、12月中に工事発注の予定です。

県事業関連では、横町東部地区の街路事業は、補償関係、工事関係ともに順調に推移しております。

田沢湖駅前広場整備関連事業の駅前宮ノ前線については、駅西側の路線バスのロータリー部及びバスシェルター等の整備を進めており、12月中の完成となります。

引き続き地域住民と一体となった取り組みを展開して参ります。

下水道関係について

新市に引き継がれた発注済の工事の進捗状況について、公共下水道事業では、補助工事5件、単独工事5件、計10件のうち4件、契約総額の62%が完成。浄化槽整備事業では、工事3件全てが完成し、竣工検査を終えております。

合併後の工事発注状況ですが、公共下水道事業では、補助工事1件、市単独工事2件で、予算比率で約26%の低い発注率となっておりますが、これは現在進めている都市計画街路岩瀬北野線との調整が整い次第発注する予定で、これを発注すると74%になる見込となります。

浄化槽整備事業については、1件で47%となっております。

また、田沢地区の農業集落排水事業については実施計画に向けた詳細測量を行っているところです。平成18年度の工事着工に向けて2億5千万円の予算要求を行ったところであり、平成21年度までの完成をめざし進めて参ります。

下水道事業につきましては、住民からの要望も多いことから、今後も積極的な事業推進を図りたいと考えております。

教育行政報告(一部抜粋)

はじめに

平成17年11月24日に議会の同意をいただき新市の教育委員5名が決定し、翌25日に臨時教育委員会を開会。委員構成を次のとおり決定いたしました。

委員長は私、黒坂源悦(任期1年)、委員長職務代理者は武藤幸生(任期2年)、委員は千葉勇(任期3年)、同じく佐久間健一(任期4年)、教育長は小林一雄(任期4年)であります。仙北市の教育文化向上、発展のため「行動する教育委員会」を目標に掲げ委員一丸となって頑張る所存であります。

児童の通学時の安全対策について

最近、下校時における児童の悲惨な事件が全国で立て続けに発生しております。国、県からはPTAや市民の協力を得ながら「監視」に重点を置いた通学路の見直し、指導をいただいておりますが、市教育委員会としては12月6日に学校関係者の緊急会議を招集し、国、県が指導している「監視パトロール強調月間」等の他に、「不審者情報の提供」、「教育機関、警察、防犯協会、保護者、行政等の組織化」、「地域が子供を育て守る意識の高揚」等の具体化について取り組むことにいたしました。

各種社会教育・社会体育の今後の取り組みについて

各種事業等については出来る限り仙北市として開催できるよう検討しております。その結果、新春書き初め大会、新春囲碁・将棋大会は、全市一体で開催します。

また、芸術文化協会や体育協会など旧3町村の社会教育・社会体育関連団体についても、統一に向けて協議を進めていただくようお願いしているところでもあります。